

第一回 新川高校修学旅行俳句コンクール

優秀賞



金木犀香ればどこも同じ国

K・Y

へ 作者コメント

松山散策の時、覚えのある香りがありました。金木犀だと気づき、遠く離れた愛知と愛媛だけでなく、同じ秋、同じ国なんだなあと思いました。

【選評】

旅先で金木犀の香りを感じた作者。遠く離れた旅先で馴染のあるいい香りにほっとすると同時に、心を奪われたのでしょうか。「どこも同じ国」と言い切ったところがいいですね。

秋深む暮れる夕日に待てと言ひ

S・S

へ 作者コメント

修学旅行は楽しくて時間はあっという間に過ぎていきました。もっと楽しんでいきたいのに、日が暮れていくのを悔しいと思いました。

【選評】

「夕日に待てと言ひ」が良いです。日が暮れていくことを残念に思う気持ちが感じられます。

秋風や旅の終わりをつれてくる

W・N

へ 作者コメント

修学旅行の帰り道に感じた、旅行の終わりの寂しさを詠みました。

【選評】

秋風は少し寂しい気持ちを感じさせる季語です。その季語に自分に気持ちをうつまく託していますね。



旅先の最後の夕日愁思かな

K・H

へ 作者コメント く

修学旅行最終日の前日、夕日を見ながら「帰りたくないなあ」と思ったことを詠みました。

【選評】

「愁思」とは、秋の気配に感じるもの悲しさのこと。修学旅行の終わりを寂しく思う気持ちをうまく表しています。

ひとふでを増やしたくなる秋の空

K・M

へ 作者コメント く

厳島神社で見上げた空がとても綺麗でした。ただ綺麗すぎて何か物足りないような気がしてこの句を詠みました。

【選評】

秋の空は青く澄んで美しいものです。美し過ぎて白い雲でも描き足したくなったのですね。

しまなみの爽やかな風身に受けて

K・F

へ 作者コメント く

しまなみ海道をサイクリングした時、風がとても気持ち良かったのを詠みました。

【選評】

爽やかな風の中を自転車で走る作者。爽やかな風を体いっぱいにしたのがわかります。

秋晴や安芸の宮島輝けり

K・T

へ 作者コメント く

秋晴れの空の下、宮島厳島神社がとても美しかったです。

【選評】

奇をてらわず、ストレートに詠みましたね。絵葉書のような綺麗な空・海・厳島神社が見えます。

秋晴れの海にうつりし友のかお

M・N

へ 作者コメント く

厳島神社の海に、秋晴れの太陽と友達の笑顔が映っていました。

【選評】

「笑顔」と言わなくても、お友だちは「笑顔」だったことがわかりますね。もちろん作者の笑顔も想像できます。